

令和元年度 学校評価表(安来高等学校)

自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数80以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数80未満⇒評価C(不十分)

校訓	評価計画				自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策			
	教育目標	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値	評価値	達成指数	評価	結果と課題		委員からの意見等		
I きびしく自らを律す	1 基本的な生活習慣の確立と、自主・自律の人格育成	生徒の基本的な生活習慣を定着させ、自主性、社会性を強化し、人格形成に資する文武両道を実現させる	朝の立ち番による挨拶・遅刻予防指導、頭髪・服装指導、登下校の交通マナー指導等を通して、規則正しい生活習慣及び校則を遵守する精神を育成する。	生徒指導	服装・頭髪・挨拶の指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.4	3.3	97.1	B	服装・頭髪の指導については計画的に取り組むことができたが、名札の適切な扱い等については日常的な指導が必要だった。挨拶については上級学年と学年部からの指導を継続的に行ってきた1年生でよくできている。	B	継続して指導をお願いする。	服装・頭髪・挨拶の指導については、生徒会からの呼びかけも含め引き続き計画的に取り組んでいく。生徒指導部からだけでなく、学年部など他の教員からの呼びかけも加えていく。	
			生徒が主体的に学校行事に参加したと感じている評価値(生徒・保護者)	3.3	3.1	93.9	B	教員と交通安全委員の生徒とで交通安全運動週間に合わせて街頭指導を行ったが、自転車通学生徒の交通マナーについては不十分であり、不定期に教員による街頭指導も行った。	B	警察からの自転車の指導の件数が多いことに驚いている。引き続き指導をお願いする。	B	交通安全に対する生徒の意識向上が必要である。警察との連携を図ると同時に、生徒会・交通安全委員会を活用して、生徒自身の側から交通安全に関する情報を発信し、問題意識の啓発ができるようにする。		
			生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を促し、諸行事において達成感を抱かせる。	生徒指導	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じている評価値(生徒・保護者)	3.8	3.5	92.1	B	体育祭や文化祭などの学校行事において、生徒会に役割を与え、生徒主体で企画・運営する機会を設けた。ただし、生徒会組織にある各種委員会の中には有効な活動ができていない委員会もあった。	B	様々な機会を通して、生徒が主体的に取り組むことができるよう工夫をお願いする。	B	活動が低調となっている委員会については、活動の機会を与える担当教員の「仕掛け」を講じる。
			保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	保健相談	保健室での相談・手当・休養が健康の保持増進に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.2	3.1	96.9	B	保健室の利用の多い生徒からの評価は高いと思われる。したがってさらに評価を上げるためには保健室を利用しない生徒に保健室の情報を伝える必要がある。	B	引き続き、生徒の支援に関する情報を、困っている生徒や保護者に提供してほしい。	B	今年と同じく保健だよりやポスターの掲示などにより情報発信してゆく。
	2 自ら学ぶ態度の育成と、学習指導の充実・強化	授業を充実させるとともに生徒に自学自習力を付けさせ、確かな学力を獲得させる	学習記録帳を活用した日々の指導を継続的にし、3点固定(起床時刻・学習開始時刻・就寝時刻)を定着させる。	教務	12月の学習時間調査の結果から1週間の学習時間が1200分を超える割合(生徒)	40%	22%	54.8	C	家庭学習時間の確保と部活動の両立に苦労している生徒が多いのは例年と変わらない。学年によっては目標値を大幅に下回っており、全体としても達成率が昨年より低くなっている。	C	達成率が低くなっている原因を探り、対策を立ててもらいたい。	C	学習記録帳と生活時間調査によって生徒の家庭学習時間を把握するだけでなく、各教科が調査結果をもとにして、生徒が家庭で取り組むべき内容や量を調整する。
			自立した学習態度を身につけさせる。	教務	十分な学習時間が確保されていると感じた評価値(保護者)	3.5	2.7	77.1	C	達成指数は昨年度とほぼ同じ数値が出ており、低調な結果が続いている。部活動との両立だけでなく、スマートフォンやテレビ視聴に費やす時間の縮減が課題である。	C	評価がCとなっているが、学習時間を確保するという目標を投げかけ、保護者の協力も必要ではないか。	C	十分な学習時間の確保を妨げている原因は何か、保護者面談や生徒面談の場面で聞き取り、原因を究明して改善につなげていく。
II 目標と信念を高く持ち	3 ハイレベルの文武両立。目標高く邁進する生徒と教師	生徒の基本的な生活習慣を定着させ、自主性、社会性を強化し、人格形成に資する文武両立を実現させる	各種行事を成功させるため、生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を支援する	生徒指導	生徒の主体的な活動を支援していると感じている評価値(生徒・保護者)	3.8	3.5	92.1	B	生徒会執行部が積極的に学園祭を企画・運営し、その結果として多くの生徒達の意見を反映した形で実施されたのは良かった。ただし、いくつかの委員会では活動が低調になっており、教員が活動の動機を伝えながら、生徒がしっかりと実行に移す過程を体験させると良かった。	B	おとなしいが、積極的でない生徒が多いので、仕掛けをうまく作って導いてもらいたい。	B	活動が低調となっている委員会については、活動の機会を与える担当教員の「仕掛け」を講じる。
			生徒が学習と諸活動との両立ができるよう、教科担当や部顧問、生徒会顧問との連携を密にする。	生徒指導	文武両立を目指した学習指導や部活動指導が行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.1	88.6	B	各部活動顧問と学年部とが連携して学習不振に悩む生徒のサポートを行うことができた。一方で保護者から学習への取組に対する不安を感じる旨の意見もあるため、各部顧問に活動計画を明示して計画的に学習に取り組めるよう配慮することが必要。	B	部活動での活動計画や目標を明示して、学習との両立を図るよう志願してもらいたい。	B	各部で年度当初に活動方針と基本的な活動の予定を記載した年鑑活動計画を作成し、学校HPに掲載することで、生徒が学習に見通しが立てられるようにする。
			部活動加入率を向上させ、地域と連携した活動と上位大会出場を推進する	生徒指導	部活動加入率に加入している割合(生徒)	95%	84%	88.6	B	部活動加入率はわずかながら下降傾向にある。特に1・2学年での加入率が低調になっている。これらの学年は入学当初から加入率が低かったため、入学生には部活動の意義と魅力を伝え、さらに学習との両立について安心感を与える必要がある。	B	1・2年生の部活動加入率が減少したと聞いたが、原因究明と対策を願う。	B	入学時の部活動加入が低調になっているため、入学当初のオリエンテーションで入部を積極的に勧める。一方で学習との両立を各部とも図っていることを伝えて新入生の不安を取り除く。
	4 学校全体が動くキャリア教育と、その成果としての進路希望実現	人権意識を基盤とした個に応じた進路保障を推進する	生徒の人権、希望、能力、適性を尊重し、補習や小論文・面接指導などの個別な個別指導を行う。	進路指導	個々に応じた進路指導がされていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.2	91.4	B	推薦入試における部活動顧問の先生方との連携がうまくできた。学校推薦型選抜、総合型選抜における定員増への対応策を早急に立てていく必要がある。	B	生徒個々にに対して適切に対応してもらっている。	B	部活動顧問、担任、教科担当間の連携をさらに丁寧に行いたい。生徒の主体的な進路選択に役立つ情報提供に努めていきたい。
			保護者、地域、大学等との連携によりキャリア教育を充実させる	進路指導	キャリア教育が進路決定や文理選択に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.0	85.7	B	直後に実施した生徒のアンケートからは好評のようであるが、進路決定への継続という観点からは物足りないのかもしれない。上級学年に関する情報収集活動は新しい形を提供していきたい。	B	様々な取組により進路選択に向けて意識付けができていようと思う。さらなる情報発信のあり方を検討してもらいたい。	B	各校を訪問していた「上級学校訪問」から学校で実施する「上級学校ガイダンス」に変え、移動時間のロス解消すると同時に情報収集の選択幅を増やす。
5 生徒の学力向上と教員の指導力・授業力向上	各教科、分掌との連携により基本的な学習習慣を定着させる	生徒の学力向上のために、各学年の進路目標に向けた課題と改善策について教職員間で共有し、進路検討会や模試分析会を活性化させる。	進路指導	安心して進路目標に挑戦できる学力と向上心を醸成していると感じた評価値(教員)	3.5	3.2	91.4	B	進路希望先の試験に合格するための学習は当然よくやっていた。「合格≠進路実現」を言い続けたことから、合格後も学力向上のために真面目に取り組む姿が多く見られたのは喜ばしいことであった。与えられてやられる勉強からの脱却を目指したい。	B	変化する大学受験の仕組みについて、今後も情報発信し続けてもらいたい。	B	現在求められている思考力、判断力の前提となる知識を定着させた上で発展させる工夫を各教科に呼びかけたい。また受験学力以外の経験値を高めるため、体験学習などへの積極的参加を促したい。	
		自他を尊重する生徒の育成「美しい人間性」と人間関係の形成	人・同教	人権を尊重する意識を育てる指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.2	91.4	B	キャリア教育、道徳教育、人権・同和教育の一体的な指導計画により、日常的に取り組んだ。今後もその趣旨が学校全体に浸透するように、随時検証を行いながら取り組むたい。	B	各取組について、アンケートを実施して検証を行い、次年度へつなげてもらいたい。	B	各取組のアンケート結果を検証して次につなげる課題や発展的内容を掘り出し、事後の活動に取り入れていく。	
III 美しく豊かに生きる	6 確たる人権尊重の意識を持ち、自らを大切にし他者を思いやる心の育成	生徒、教職員の人権意識を高め、地域との連携を深める	人・同教	学校活動で人権を意識して行動する場面があったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.4	97.1	B	発達の障がいがある生徒の具体的な支援方法についての校内研修会や、同地区出身者による講演会を実施し、参加者の資質向上に努めることができた。生徒会人権委員会に働きかけ、地域での人権啓発活動ボランティアに取り組んだ。	B	次年度以降も継続して講演会や校内研修に取り組んでもらいたい。	B	現在の取組に加え、現代社会のさまざまな人権課題についても、取り上げて学習する機会を設定したい。	
		開かれた学校づくりに向けた広報活動の充実	総務	HPの月の更新回数	3回	6.7回	223.3	A	昨年度(4.2回)以上の更新ができた。業務アシスタントの方に情報を随時提供していただいた。昨年度の意見を取り入れ、進路情報を盛り込んだ進路便りを掲載した。	A	昨年度の反省をもとに改善がなされている。HPは、引き続き、早く、新しい情報の掲載に心掛けてもらいたい。	A	来年度も各部と連携し、最新の情報を掲載していきたい。	
	7 開かれた学校作りと家庭及び地域連携	PTA・中の海会・その他諸団体との連携による学校教育に対する信頼の醸成	本校の現状がわかるような情報が適切に提供されていると感じている評価値(保護者)	総務	保護者への文書は、ピンク色の紙に印刷し、保護者が確認できるような工夫を凝らして、保護者へ入学予定者説明会やPTA総会等を通して、本校の情報発信の仕方を伝えている。	3.5	3.1	88.6	B	保護者への文書は、ピンク色の紙に印刷し、保護者が確認できるような工夫を凝らして、保護者へ入学予定者説明会やPTA総会等を通して、本校の情報発信の仕方を伝えている。	B	ピンク色の紙での配布は効果的である。継続してもらおうとすると、生徒がきちんと保護者に渡すという意識付けも必要である。	B	情報伝達が適切に行われるように、生徒や保護者ともに様々な場面をとりながら意識付けをしていきたい。
			PTA総会の出席率(保護者)	25%	13%	52.4	C	今年度PTA総会の際、「出身別PTA」の活動から「学級・学年懇談」に変更した。PTA総会の参加者は増加したが、「学級・学年懇談」の参加者は増加した。	C	学級・学年懇談は好評である。PTA総会の開催について小中学校との調整も必要ではないか。	B	来年度も引き続き、学級・学年懇談を計画していきたい。市内小中学校のPTA総会などの行事と照らし合わせながら、行ってきたい。		
8 豊かな情操の涵養と、環境美化意識の徹底	保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	朝の健康観察に基づく欠席者集計や保健室利用による生徒の状況把握と教職員への情報提供を徹底する。	保健相談	健康診断・治療報告や保健室での相談、健康の保持増進に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.3	94.3	B	自分自身の健康管理に興味・関心をもたせ、健康診断・健康観察の重要性を理解させるよう引き続き取り組んでいく。	B	安高の子は、明るくて元気なのが魅力。保健室からの情報発信も今後も続けてもらいたい。	B	歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診などで治療の場合、夏休みなどを利用して受診するように保護者へ連絡する。	
		図書利用のための広報活動の強化	図書情報	生徒の読書活動を活性化していると感じている評価値(教員)	3.5	3.4	97.1	B	例年行っている「ブックレビュー」「ブックトーク」学級文庫に加え、美術部と「ピフオパトル」を弦楽部と「クリスマスコンサート」を共催した。また、図書館のレイアウトをリニューアルして生徒が利用しやすいよう工夫した。	B	新しい取組と例年の工夫により、読書活動の活性化が進んでいると思われる。	B	イベントの開催時期・実施内容を再考する。「ブックレビュー」も見直し、さらに生徒の読書活動を活性化させたい。	